財部　香枝

20 号館 9 階　財部研究室

専門分野：科学史（博物学史、気象学史）、科学技術社会論

テーマ：博物館は公衆と語り合う最前線（古臭くない！）

―ジェンダー、人種、環境、イノベーション

【授業の主旨・目的】

博物館は、収蔵品を並べているだけではなく、学芸員が、見る人に問いを投げかけ、ともに語り合う場でもあります。演習では、アメリカの博物館/展示をとおしてアメリカの社会文化を深く考察します。卒業研究のテーマは教員の専門に限定しませんが、教員による 2 年次の授業「北米から学ぶ」に関心を持っている、英語圏に関心を持っている、または、教員の研究フィールドであるワシントン DC のスミソニアン協会に関心を持っている学生が望ましいです。

アメリカの都市や田舎を歩くと、至る所で博物館に遭遇する。たとえばシカゴのオヘア国際空港ではフィールド自然史博物館の巨大なブラキオサウルス骨格標本が屹立する。博物館は非営利団体、営利団体、大学、あらゆるレベルの政府（連邦政府、州政府、市町村、郡など）によって運営されている。博物館は運営形態から内容まで、実に多様であり、気軽に出かけて知的冒険を楽しむ人気の場所となっている。博物館入館者は毎年約 8 億 5 千万人おり、これは、野球などのメジャーリーグ全てのスポーツ行事とテーマパークを合わせた入場者より多いほどである。アメリカ博物館協会によれば、博物館はまた、大学の研究者や教授を抑えて、もっとも信頼できる情報源としても認識されている。ものを見て世界の驚異に触れ、知識を増やすというアメリカの博物館文化は、見ることに対するアメリカの人々の思い入れの深さを物語る。自然史、人類学、科学技術、自然センター、樹木園・植物園、動物園、水族館、プラネタリウムなどの科学技術の博物館や科学センターについても、アメリカ人は他国の人より頻繁に行くとされる。（中略）2009 年にヒットした映画≪ナイト ミュージアム 2≫は、原題に≪Night at the Museum: Battle of the Smithsonian≫とあるように、スミソニアン協会が舞台となった（同シリーズ 1 作目の舞台はニューヨークのアメリカ自然史博物館）。

参考文献：

財部香枝「博物館」『アメリカ文化事典』丸善出版、2018：326–327.

財部香枝「スミソニアン協会による科学の可視化戦略：長官ウェイン・クラフの挑戦」『アリーナ』第 22 号、2019：483–94.

【授業計画】

20 以上の博物館・美術館、動物園および 9 箇所の研究所からなる、世界最大の博物館・研究所群であるスミソニアン協会（本部はアメリカ、ワシントン DC）の展示（歴代ファーストレディのガウン、ホープダイヤモンド、ティラノサウルス、火星探査機・・・）を題材に、何気なく見ている展示の背景にある社会文化を理解します。担当者の発表後、全員で討論します。要望があれば、実際に博物館を訪れる機会を持ちます。

【評価方法】 発表・討論への「参加」および課題の取り組みを、総合的に判断します。教科書は使用しません。

【面談に際しての注意事項】 メール予約は必要なし。20 号館 9 階研究室前の予約表に予約を記入しましょう。

【特別な場合の連絡先】takarabe@gs4e.chubu.ac.jp

